

平成24年2月17日

ユネスコ無形文化遺産保護条約「代表一覧表」

に係る提案候補の決定について

ユネスコ無形文化遺産保護条約の「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（以下、「代表一覧表」）」への提案については、本日開催された文化審議会文化財分科会（会長：佐々木丞平・（独）国立文化財機構理事長）において、「和食；日本人の伝統的な食文化」を提案候補とすることを決定しました。

今後は、無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議（構成：外務省、文化庁、農林水産省）の審議を経た上で、ユネスコへ提出されることとなります。

[審議の経緯]

平成23年7月21日 文化審議会文化財分科会無形文化遺産保護条約に関する特別委員会（委員長：神崎宣武・旅の文化研究所長）
平成24年1月24日 //
平成24年2月6日 //
平成24年2月17日 文化審議会文化財分科会（会長：佐々木丞平・（独）国立文化財機構理事長）

[平成24年申請の提案候補]

「和食；日本人の伝統的な食文化」

（概要は、別添「日本食文化の無形文化遺産記載提案書の概要（平成24年2月・日本食文化の世界無形遺産登録に向けた検討会作成）」のとおり。）

次頁あり

<担当> 文化庁文化財部伝統文化課
課長 湊屋 治夫（内線 2859）
文化財国際協力室長 南 新平（内線 2869）
室長補佐 竹田 透（内線 3143）
係長 香取 雄太（内線 2870）
電話：03-5253-4111（代表） 03-6734-2870（直通）
FAX：03-6734-3820

[提案の理由]

1. 和食（日本食文化）は、四季や地理的な多様性による「新鮮で多様な食材の使用」、「自然の美しさを表した盛りつけ」などといった特色を有しており、日本人が基礎としている「自然の尊重」という精神に則り、正月や田植え、収穫祭のような年中行事と密接に関係し、家族や地域コミュニティのメンバーとの結びつきを強めるという社会的慣習であり、条約に定める「無形文化遺産」として提案することが適切であると認められる。さらに、日本食文化を保護し、価値を高め、子どもや孫の世代に伝えることは、広く国民の支持を得ている（「日本食文化の世界無形遺産登録に向けた検討会」アンケート調査結果）。
2. また、東日本大震災による原発事故により風評被害を受けている日本食に対する信頼を回復する必要があるとともに、日本食文化は日本全体に関わるものであり、日本全体の震災からの復興のシンボルとして世界に向けてアピールするために、早急にユネスコに申請する必要がある。
3. 平成23年12月24日に閣議決定された「日本再生の基本戦略」において「我が国が誇るべき食文化について、理解の促進とその魅力向上を図り、日本文化の発信につなげるため、ユネスコ無形文化遺産への登録を推進する。」とされている。

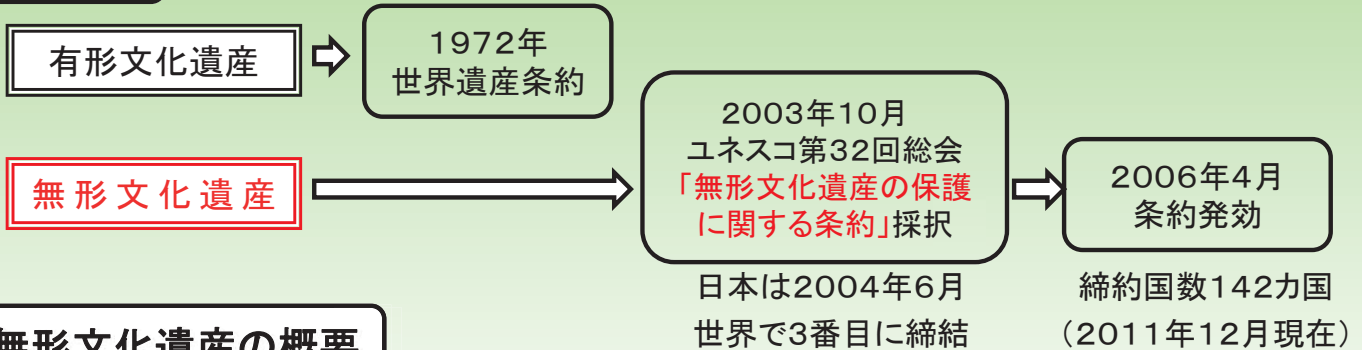
[今後の日程について]

平成24年3月	無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議（政府として提案候補の最終決定）
平成24年3月31日	ユネスコへの提案書提出期限
平成25年10月	補助機関による勧告
平成25年11月	第8回政府間委員会

※「和食；日本人の伝統的な食文化」が審査される最短の日程

無形文化遺産の保護に関する条約の概要

経緯



無形文化遺産の概要

(分野の例示) 芸能、社会的慣習、祭礼行事、伝統工芸技術など

条約の内容

(目的)
無形文化遺産の保護
関係ある社会、集団、個人の無形文化遺産を尊重することの確保 など

「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表(代表一覧表)」の作成

「緊急に保護する必要がある無形文化遺産の一覧表」の作成

無形文化遺産基金による「国際援助」 など

「代表一覧表」への記載の流れ
(2009年9月から記載開始)

締約国がユネスコへ提案

政府間委員会の補助組織
による審査

政府間委員会において決定

「代表一覧表」に記載された我が国の無形文化遺産

【重要無形文化財】

- ・能楽(のうがく)
- ・人形浄瑠璃文楽(にんぎょうじょうるりぶんらく)
- ・歌舞伎(かぶき)
- ・雅楽(ががく)
- ・小千谷縮・越後上布(おぢやちぢみ・えちごじょうふ)
- ・石州半紙(せきしゅうばんし)
- ・組踊(くみおどり)
- ・結城紬(ゆうきつむぎ)

【重要無形民俗文化財】

- ・日立風流物(ひたちふりゅうもの)
- ・京都祇園祭の山鉾行事(きょうとぎおんまつりのやまほこぎょうじ)
- ・甌島のトシドン(こしきじまのとしどん)
- ・奥能登のあえのこと(おくのとのあえのこと)
- ・早池峰神楽(はやちねかぐら)
- ・秋保の田植踊(あきうのたうえおどり)
- ・チャッキラコ(ちゃつきらこ)
- ・大日堂舞楽(だいにちどうぶがく)
- ・題目立(だいもくたて)
- ・アイヌ古式舞踊(あいぬこしきぶよう)
- ・壬生の花田植(みぶのはなたうえ)
- ・佐陀神能(さだしんのう)

計 20 件



日本食文化の無形文化遺産 記載提案書の概要



平成24年2月

日本食文化の世界無形遺産登録に向けた検討会

「自然の尊重」という精神に則ってできた「和食」を提案

和食では

日本の国土に根ざした多様な食材が新鮮なまま使用されている

- 明確な四季の存在と地理的な多様性のおかげで、新鮮で多様な山海の幸が使用されている。
- 食材の持ち味を引き出し、引き立たせる工夫が発達している。(うま味が豊富な出汁、独特の調理道具)
- 風土に即した発酵技術が発達している。(味噌・醤油、日本酒)

コメを中心とした栄養バランスに優れた食事構成となっている

- コメ、味噌汁、魚や野菜・山菜といったおかずなどによりバランスよく食事が構成されている。
- 動物性油脂を多用していないため、日本人の長寿や肥満防止に寄与している。

食事の場において「自然の美しさ」「季節の移ろい」が表現されている

- 料理に葉や花などをあしらひ、美しく盛り付ける表現法が発達。
- 季節感を出すため、季節にあった食器を使用したり、部屋をしつらえたりする。

正月や田植え、収穫祭のような年中行事と密接に関連している

食事の時間を共にすることで家族やコミュニティメンバーの絆を強める役割をもっている。

「和食」を

食事という空間の中で「自然の尊重」という精神を表現している「社会的慣習」として提案。

「和食」を記載することで期待される効果

◆無形文化遺産全体の認知や重要性の認識が向上する。

「和食」は

- バランスの良い食事により健康増進に貢献する。
- 「もったいない」の精神で環境問題の解決にも寄与する。



- 「和食」が記載されれば、無形文化遺産が健康や環境問題にも寄与するという新たな地平を拓くことにより、認知を広げる。

◆コミュニティや集団、個人間の対話を促進する。

- 記載により、各地域の食文化が「自然の尊重」の精神という共通の背景を持つことが理解される。
- 様々なコミュニティが、他のコミュニティの食や地域行事・祭事について興味をもつこととなり、対話が促進される。
- 既に代表一覧表に食文化が記載されているフランス等の国との対話も促進される。

◆文化の多様性、人類の創造性に対する敬意を醸成する。

「和食」は、

- 地域の多様性を色濃く残す慣習である。
- 同時に、他地域や諸外国の食文化を取り入れて常に変化してきた。また伝統工芸など食関係の文化もこれに合わせて発達してきた。



- 食の領域で文化の多様性と人類の創造性を同時に示しているものである。

保護措置は全国約500のコミュニティ・グループ等の取組を中心に構成

全国約500のコミュニティ・グループ等の取組(実践例や提案)

地域及び地方公共団体の取組

- ◆ 子ども達に「和食」を伝えるため、学校給食や地域の行事で郷土料理を提供
(例：霧島食育研究会、一関もち食推進会議、鶴岡市食育・地産地消推進協議会、鯖江市)
- ◆ 家族や学校、生産者、民間団体の協力のもと、あらゆる世代・立場の人への食育を実施
(例：庄内浜文化伝道師協会、小牛田地域精進料理の会、小浜市、富士宮市)
- ◆ 地域の「和食」の伝統に関する知識や技術の保持者を匠として登録する制度
(例：JA秋田やまもと、北海道、岩手県、香川県、大野市)
- ◆ 各地のシンポジウムやセミナーにおいて、様々な食文化を展示
(例：滋賀の食事文化研究会、愛媛県農山漁村生活研究協議会、山菜文化研究会)

その他の取組

- ◆ 地域の「和食」を正しく記録するため、またその機能や意義を知るために様々な調査や研究を実施
(例：日本家政学会、日本食育学会、沖縄県栄養士会、日本伝統食品研究会)
- ◆ 和食の文化の継承を支援する料理の専門家や研究者の育成を行うための高等教育機関を設立
(京都府)

モニタリングの実施

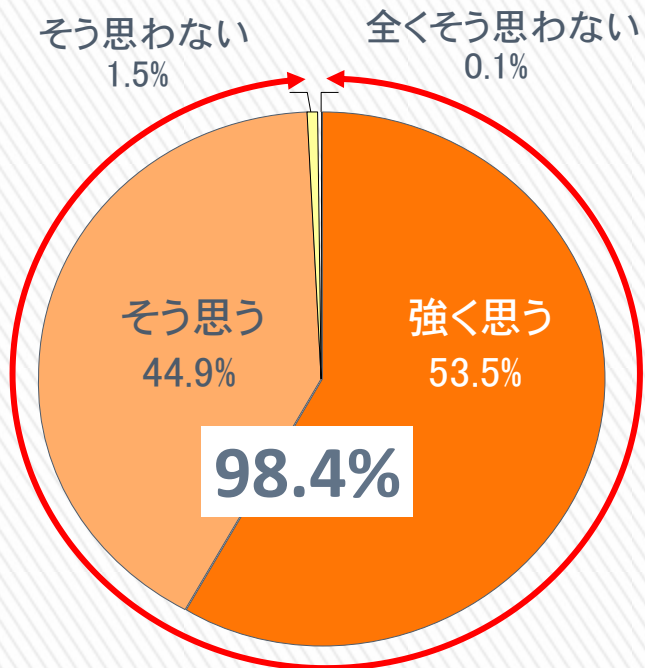
- ◆ 申請に賛同するコミュニティや集団による「日本食文化のユネスコ無形文化遺産化推進協議会(仮称)」のもと、登録に伴う過度の商業化等についてモニタリングを実施

国のサポート

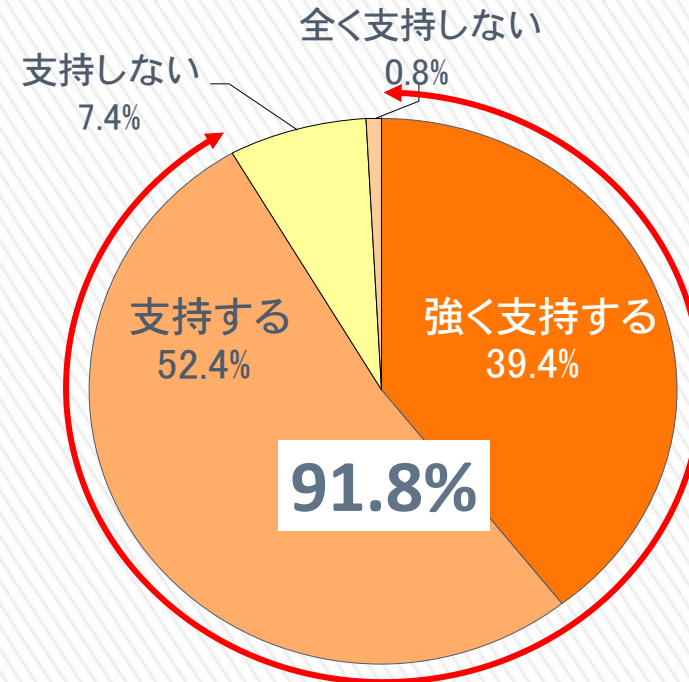
- ◆ 食育推進基本計画に沿って、生涯食育の普及、団体などが行う食文化の継承のための活動を支援
- ◆ 地域固有の農林水産物・食品の保全に資する地理的表示の保護制度の導入
- ◆ 新たな展覧会の開催
- ◆ モニタリングの取組を支援

アンケート結果では日本食文化の提案が圧倒的に支持されている

あなたは、日本食文化を保護し、価値を高め、子供や孫の世代にも伝えることは重要だと思いますか。



あなたは、日本食文化をユネスコの無形文化遺産に提案することを支持しますか。



- 調査対象：日本国民 男女 20歳以上
- 調査形式：無記名 Webアンケート
- 実施時期：2011年9月15日～9月20日
- 有効回答数：3134



[賛同したコミュニティ、グループの例]

- NPO法人霧島食育研究会
- ロハス越前
- 一関もち食推進会議
- 鶴岡市食育・地産地消推進協議会
- 庄内浜文化伝道師協会
- 岩沢まごころ市
- アグリネットななえ
- 山菜の里いび
- 各地のスローフード協会
- 各地の農協・漁協
- 沖縄 食の風
- 小牛田地域精進料理の会
- 滋賀の食事文化研究会
- 愛媛県農山漁村生活研究協議会
- 日本箸文化協会

等

[賛同した地方自治体等]

北海道、岩手県、長野県、京都府、香川県等 32県
富士宮市、鯖江市、小浜市、大野市、京都市等 290市町村
全国知事会、全国市長会、全国町村会



(参考) 既に代表一覧表に記載されている食の分野の無形文化遺産

フランスの美食術(22年登録)

【登録内容】

- 出産、結婚、誕生日等の生活における最も重要な時を祝うための社会的慣習
- 特定の料理ではなく、より美味しく食事をするという美食の慣習

【保護措置】

- 小学校における「味覚教室」の実施
- 食や美食に対する研究組織の設立
- 保護措置の監視機関の創設 等

【社会の賛同】

- 89.2%の国民が無形文化遺産への登録を支持 (アンケート調査)
- 各地域の美食を保護しようとする団体が数多く賛同

地中海料理(22年登録)

【登録内容】

- 風景から料理に至るまでの一連の技術、知識、慣習、伝統に基づく社会的慣習
- 魚介類、麦類、乳製品、野菜等をバランスよくとり、オリーブオイルを中心に油脂分を摂取する健康的な食事

【保護措置】

- 子供たちへの食育プログラム、レシピコンテストの開催、書籍の出版、イベントの開催
- 地中海の食事のデータベースの作成 等

【社会の賛同】

- スペイン、ギリシャ、イタリア、モロッコの4カ国で147団体が賛同

メキシコの伝統料理(22年登録)

【登録内容】

- 儀式や祝祭における伝統的メキシコ料理に係る社会的慣習

【保護措置】

- 伝統料理の保護モデルの確立、地域の食の調査研究 等

【社会の賛同】

- 地方公共団体や食の関係者が多数賛同

トルコのケシケキの伝統(23年登録)

【登録内容】

- 結婚式や祝日、雨乞いなどの儀式におけるケシケキ料理(麦かゆ)に係る社会的慣習

【保護措置】

- ケシケキのイベント関係、ケシケキの研究、記録 等

【社会の賛同】

- 27団体が賛同